

過程の密接不離な関連性を強調し、個々の段階の区分を明確にして、その各々について研究する。

生徒は多くの過程の機械化(原料及び生煉瓦の運搬装置、トロッコの積載卸荷等)、蒸気を加熱するための炉のガス利用、生煉瓦を蒸煮する時の触媒の応用、反応時間中の条件(最上の皮相、温度及び圧力)等に注意する。教師はこれらの原則が多くの化学的生産

にとって共通であることを指摘する。

総括問答では生産の発展における基本的方向即ち工程の改良、労働過程における肉体的労働の機械作業による交替、機械作業に対する検査の自動化、合理化案とスタハノフ労働の役割を強調する。  
見学で集めた材料で生徒はコレクションを作る。  
硫酸煉瓦工場(カリニン市には二つある)

はわれわれの市の生徒やピオネールにとって好適な見学の対象である。硫酸煉瓦工場の見学は石灰及びその生産の学習に関連して七年級でも手軽に行うことができる。八年級ではテーマ「酸化物、塩基、酸及び塩」について又十年級ではテーマ「炭素と珪素」についてこの工場の見学を実施するがよい。

### ★連盟結成記念★

## 研究助成金交付者決定

かねて募集中の研究助成の申請は、昨年未締切だったが、多数の申請より審査の結果つぎの五件を決定、それぞれ助成金を交付することとした。

- 施設・設備と管理運営の実際  
群馬県吾妻郡 坂上中学校  
技術学習における指導法の研究  
大阪市大池中学校 磯部喜代三  
中学生の家庭労働と産業教育  
熊本県新合中学校 浜松信之  
どこでもできる産業教育  
岐阜県中部中学校 清水真六  
本校の職業・家庭科教育課程

岡山県日里中学校 三宅俊雄  
なおつぎの五氏の申請は、今後に期待することとし今回は保留された。何れも熱心な研究意欲の示されたものであった。

- 鳥取県 河口昇之助  
神奈川県 井上昭二  
栃木県 藤井昭人  
秋田県 長沢昭四郎  
大分県 安達宮一

### 審査の経過

決定の中前二者は、すでに本部からも行

ったことがあり、真価が明白であるので、当方から指定した。以下の三者は申請のみによって審査したが、浜松氏の題目は、むしろ教科以前または学校外の調査研究で、特殊地域の生徒の労働状態の調査であり、清水氏のは具体的ではなかったが、題目を実践に生かしていく具体案を研究してほしいと要望している。三宅氏は、農村の小さい学校での教育課程の研究で、農村の方のものにならないよう希望する。保留の方は、それぞれよい題目であったが、産業教育の目標とか、研究の方向に多少のずれが感じられた。全体を通じて二十代の若い人からの申請が少く、五通ほどあった中、二者までが「道徳教育」だの「勤労教育」をテーマとされていたのは、一寸意外な感があった。(審査委員会)

なお研究助成はこれで終るのではない。今後もひきつぎ指定又は申請を募集するつもりであることを附記しておく。

## 研究発表における四つの類型

川崎市御幸中学校の研究発表に関連して

長谷川 淳

産業教育研究指定校の研究発表が昨年末の産業教育七十周年記念式典を機に全国的に多彩におこなわれた。この二三年の間の研究成果を世に問うたわけである。これらが一体どれだけ産業教育の進展に寄与したであろうか。

これら指定校の研究なるものを見ると、その中にくつつかの類型が見い出される。その第一のものは、「教科課程の研究」と言われるものである。これはまた「単元の構成とその展開」の研究でもある。この研究は、他の研究よりも古く、産業教育振興法ができる前から推し進められ、法律以前の研究指定校の研究テーマとして、また研究集会の研究テーマとして、いまの学習指導要領の地固めとして行われて来たものである。これは教育研究を末梢的な技術に終らしめ、教育の実践と研究とを遊離せしめ、教育の実践をおろそかにした責は大きい。この種の研究は現在では殆ん

ど影をひそめているが、しかし、教育実践の苦心も要らず、設備その他に金もかからず、研究の一応のていさいを保たせるために、まだ続けられているものが見受けられる。

次の第二の類型は、「産業教育の理念」を求める研究である。この種の類型が最も多く、また多彩である。この中には、普通教育としての産業教育を理論的に解明したすぐれたものも多いが、また、勤労主義教育、実生活主義、道徳教育、地域社会主義などと定義してその根拠を学習指導要領に求めて、指導要領を丸うつしにしたものが相当見られる。これらの「理念」が正しいものであるかどうかは、実践によってためし、実践のうらづけがなければならぬ。しかし多くの場合、ことに他の文書の模写抜すい編集の場合は、全く教育実践と遊離していることが多く、その結果は第一の類型と同じである。

この場合は、中学校の産業教育を職業準備教育として捉え、地域の産業に役立て、それへの就職を目的としたものである。しかし多くの場合、極めて狭い閉じられた地域の調査におわり、その調査資料も少く、その中から安易な推定や結論をみちびいている場合が多い。

この三つの場合はいずれも、産業教育研究指定校としての設備費の補助をうける資格のない研究である。

第四の場合には、教育実践や学習指導法の研究である。そのうちの一つは、職業分析によって要素作業を選び出し、能率的に指導しようというものである。この職業分析を、どんな観点に立ってこれを適用し、どんな基準に従って要素をえらび出すかを明確にしておかなければ、換言すれば、職業分析を教科課程を構成するための手順として適用するのでなければ、部分的な作業の訓練におわってしまいう場合が多い。この類型のもう一つものは技術的にすぐれた指導者による経験的な指導法の研究であり、この中にはすぐれたものが多い。しかしこの二つの場合はともに「産業教育の意義」を明確に把握しておかなければ、その方向をあやまる危険が多い。

法律にもとづく産業教育研究指定校も三年を経過し、その間に中央産業教育審議会から職業・家庭科について二度も建議が出され、ようやく中学校の産業教育が正常な軌道にのろうとしている。各地の指定校の中にも、今後のこの教育の方向を示すようなすぐれた研究と実践を行っているものがあらわれ出している。

神奈川県川崎市立御幸中学校は、昭和二十七年に「工業地域における職業・家庭科のあり方」を研究のテーマとして指定をうけ、昭和二十八年一月に中間発表を行い、昭和二十九年十一月に、第二次の研究発表を行った。第一次の発表での問題点は「工業地域」という地域の問題であった。しかし、川崎市は、日本の産業の心臓部であり、日本全体の経済のしくみの縮図がこの地に見られるようなものである。この言葉にも拘らず、狭い地域主義におちいらなかったのは、日本の代表的な地域の一つであったからかも知れない。しかしそれよりも、校長は工業高等学校の経営の豊富な経験をもち、教育者としての識見をもった第一級の技術者を教師にもっているためである。

3、方法が適切であること。すなわち、よく準備され、計画的組織的であること。本校の最も大きな特色は、一単元一教師という組織である。ここにいう一単元とは、学習指導要領に言う単元ではない。一つの生産技術の体系を一つのまとまりとして考え（これが、生徒に考えられる最善の学習のまとまりである）その生産技術について有能な一教師によって系統的に指導するものである。中学校教育全体の理念、その中の各教科の位置づけを明確にし、職業・家庭科の各単元相互の関連や全体計画を周到に立てておけば、個々のブロックでの学習が、生徒自らの力で一つのものに統一されて行く。本校の場合がそのみごとな実例である。

このように用意された少数の選択課程を生徒全部に、二年三年を通じてえらばせ、広く浅くではなく、系統的に徹底的に練磨させている。普通教育か職業準備教育かは、内容如何の問題ではなく、方法いかなの問題である。

本校の選択課程としての産業教育の実践と一単元一教師のシステム、これをむしる必修の課程の方法として採用することを望むもの

その中の一人稲田教諭は、中央産業教育審議会の専門委員として、第二次建議の立案に参画している。このことから、本校で研究し始めた産業教育の理念は、借りものでないことは明らかである。本校では、産業教育を「わが国の現状を正しく把握し、将来の動向を推察して、平和と経済自立という国家的課題を解決し得るような人間を育成することである」とし、この産業教育の目指す具体的人間像を次のように規定している。

- 1、社会の不合理ととりくみ、それと対決し、それを自主的に改革していけるような正しい社会認識をもった人間。
- 2、社会の改善向上を阻害するような生産を否定し、常に社会の平和と向上のために行動する人間。
- 3、平和と経済確立のための重要産業において生産性の高い人間。

これは第一次発表のときにすでに描いていた教育の理念であり、人間像であった。これにもとずいて実践し、二年間の実践を通じて確立したものである。このことは、すでに地域主義から脱却していることを示す一つの証拠である。

第二次の発表は、同じ研究題目の下に、特別である。

研究発表当日の公開授業では、平常の教育実践がそのまま継続展開され、生徒がよく技術を習得し機械を使いこなし、教師の目にとどかない処でも、実にスムーズな作業が行われ、徳目によってしつけられたものでない態度、望ましい学習の結果自然に生れたと思われる態度、かがやく生徒の目のいろが参観者に深い感銘を与えた。

本校のすばらしい実践を設備が整っているためだと考える人もあるであろう。しかし設備基準の約五〇〇％程度である。どんな立派な設備も、教育の目標を明確にし、周到な計画をもっていなければ使いこなすことができない。結局、本校の実践のすばらしさは次の点に帰することができる。

- 1、産業教育の目標を明確に、あやまりなく把握していること。
- 2、その目標にしたがって選ばれた教育内

## 予 告

# 中学校職業・家庭科 女子向教育内容研究集会

毎年恒例の家庭関係の研究集会を、今回は表題のようにした。職業・家庭科として、女子を指導するばあいの全体から考えようとするのである。その立場から家庭の傾斜面を中心に討議したい。詳細は三月号に発表するが、参加希望の方の心構えとして、大要を記して予告とする。

- 一、会 期 三月二十七日午前十時より五時まで
  - 一、会 場 甲府市西中学校
  - 一、方 法 数名の研究発表（具体案）を中心に討議し、全国的な基準案を作る。
  - 一、指 導 文部省事務官、指導主事、本連盟委員
- （中込みその他詳細については三月号に発表する）